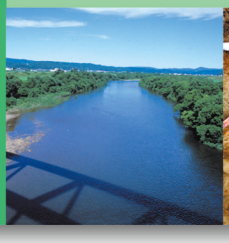
今金町
文化財保存活用
地域計画











概要版

住民参加で　未来へつなごう　今金の歴史文化

令和４年７月

北海道今金町

はじめに

今金町には国指定史跡ピリカ遺跡をはじめ、ピリカカイギュウ化石等の文化財が知られていますが、指定文化財は計 9 件と多くはありません。これは決して文化財が少ない地域ということではなく、本来あるはずの文化財をきちんと把握し、それらを専門的な観点から評価、価値付けするという取組が低調であったことの裏返しととらえています。

近年、日本の社会は少子高齢化に加えて人口減少が益々進行し、大切な文化財を未来に引き継ぐことに大きな課題があると指摘されています。この傾向は当町においても顕著で、今のうちに調査・把握をしておかなければ、貴重な文化財を失ってしまう恐れがあります。

この観点に立ち、文化財の把握調査を早めに進め、適切な保存管理体制を構築し、今後の今金町のまちづくりに文化財を活用していく取組を町民とともに展開していくために、文化財保存活用地域計画（以下、地域計画と呼称）を作成するものです。

文化財保存活用地域計画とは

市町村における文化財の保存と活用に関する総合的な法定計画で、市町村の総合計画の下位に体系付けられます。文化財保護行政の中・長期的なマスタープランと、より具体的なアクションプランの両方の役目を担います。

地域計画を作成することにより、文化財を総合的・一体的に保存・活用し、地域の特徴を活かした地域振興に資するとともに、確実な文化財の継承につなげるものです。平成 30 年度に文化財保護法が改正され、全国の市町村で地域計画の作成が推奨されています。

今金町では令和 2 年度から作成準備に取りかかり、令和 3 年度に今金町文化財保存活用地域計画策定委員会を設置して作成作業を進め、令和 4 年 7 月に文化庁の認定を受けました。

計画期間は第 6 次今金町総合計画に準じ、令和 4 年度から 12 年度までの 9 年間としています。

計画の目標

第 6 次今金町総合計画の文化財保護行政に関する章では、その目指す姿として「町民が文化に親しみ文化活動に参加できる環境づくりや文化・芸術の担い手を育成するとともに、本町や我が国にとってかけがえのない文化財を保護し、基礎的な調査・研究に取り組み、身近にある文化財の価値を磨き上げ、その価値を学ぶ機会を設けることにより、郷土に誇りを持てる人材を育成するまちづくりを目指します」（『第 6 次今金町総合計画［前期基本計画］』20 頁）と示されています。これをふまえ、本地域計画ではその目指す目標を

《計画の目標》
文化財を守り、調べ、磨き上げ、郷土に誇りを持てる人を育てる

ことと定めます。そして、その基本理念と方針、具体的なアクションプランを示す役割を本地域計画が担います。

今金町の文化財の概要

国指定３件、町指定６件の計９件の指定文化財があります。北海道指定文化財はありません。

今金町の指定文化財一覧　　令和４年３月現在

	名称	点数・面積	種別	指定年度
国指定	ピリカ遺跡出土品	163 点	有形文化財（考古資料）	平成３年度
	ピリカ遺跡	99,090 ㎡	記念物（史跡）	平成６年度
	松前神楽		無形文化財（重要無形文化財）	平成 29 年度
町指定	ピリカ遺跡出土品（国指定物件以外のすべて）	約 11 万点	有形文化財（考古資料）	平成３年度
	ピリカカイギュウ化石	33 点	記念物（天然記念物）	平成６年度
	上田式豆まき器	10 点	民俗文化財（有形民俗文化祭）	平成 26 年度
	美利河砂金採掘跡	33,839 ㎡	記念物（史跡）	令和３年度
	美利河マンガン鉱山関連資料	30 点	有形文化財（歴史資料）	令和３年度
	カニカン岳金山跡鉱山臼	３点	有形文化財（考古資料）	令和３年度

当町では地域計画の作成に先立ち、令和２年度から文化財の網羅的な把握調査を行っています。当町の地域性や特徴を示すものを対象として把握に努めた結果、下表のとおり 476 件を確認しました。今後の調査でさらに増加することが予想されます。

今金町の文化財一覧（指定文化財を除く）　　令和４年３月現在

種別			件数	備考
有形文化財	建造物*	寺院	7	
		神社	19	
		教会	6	
		茅葺き家屋	1	
		近代化遺産	5	農業用水路、ダム、農協倉庫群等
	彫刻	石造物、木碑等	71	記念碑、供養碑等
	絵画	石版画・銅版画	238	赤川勲版画作品
	典籍	歴史資料	6	開拓期史料
	考古資料	考古資料	11	未指定資料および表面採集資料
民俗文化財	有形民俗文化財	有形民俗文化財	10	鉱物採取、農機具、生活用具等
	無形民俗文化財	無形民俗文化財	7	祭礼、今金音頭等
記念物	天然記念物	天然記念物	16	化石、地層、樹木等
文化的景観	文化的景観	文化的景観	4	
埋蔵文化財包蔵地			59	
文化財類型には該当しないが地域にとって重要なもの			16	記憶遺産、地名、食文化等
合計			476	

*民家や倉庫、公共建築は把握調査中のため掲載していません

今金町の文化財の特徴

当町は歴史の歩みや生業形態が地域ごとで大きく異なります。東側の山間地は化石や岩石、貴重鉱物といった資源が豊富なことを背景に、遺跡や鉱山、採石場が多くあります。西部の平野部は食糧基地としての可能性が早くから注目され、キリスト教徒の団体入植を初めとして全国各地から入植者が入り、厳しい洪水被害に悩まされながらも開拓が進められました。大正期の農業用水路の完成により水田開発が大きく進展しました。南部の高原地帯には、冷涼な気候を生かした一大酪農地帯が形成されています。全域に共通する産業として、豊富な森林資源を背景とした林業があります。昭和初期に完成した国鉄瀬棚線の開業で、林業・鉱業・農業という町の基幹産業が飛躍的に発展しました。産業の発展を下支えした馬の存在も特筆すべきものがあります。

町内にはこうした独特の歴史や文化を伝える数多くの文化財が各地に残されています。

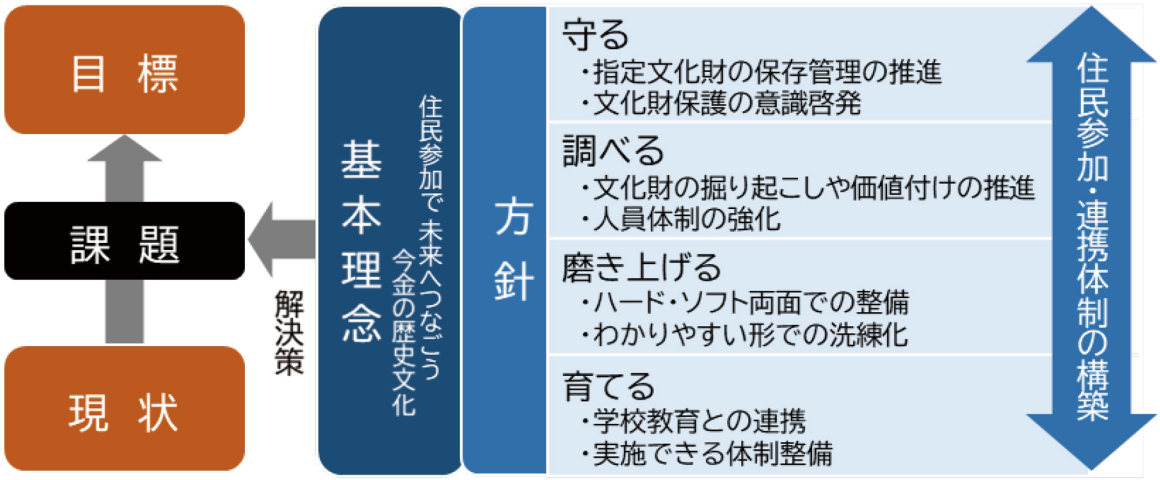


文化財の保存・活用に関する基本理念・方針

本地域計画は人材育成を目標の中心に掲げています。現在の当町の状況からこの目標の達成を目指すとき、4 つの分野で次の課題が浮かび上がりました。

《課題》			
保存(守る)	調査(調べる)	活用(磨き上げる)	育成(育てる)
担い手の減少 高齢化 理解不足	調査が不十分 職員体制 連携不足	施設未整備 わかりづらい 受入体制	学ぶ機会が少ない 受入体制

これらの課題を解決するため、基本理念「住民参加で 未来へつなごう 今金の歴史文化」を掲げ、「守る」・「調べる」・「磨き上げる」・「育てる」の 4 分野で対処方針を定めました。また、全分野共通の方針として、子どもたちを含む「住民参加・連携体制の構築」を定めました。これらの方針に沿った取組を行うことにより、課題の解決を図ることとしています。



また、本地域計画では、前ページで見出した歴史文化の特徴の中から、共通のテーマやストーリーを持つ関連文化財群*を 4 つ設定し、優先的に調査・保存・活用を進めることとしています。

関連文化財群名称				
	大型カイギュウが暮らした地	旧石器時代の一大石器製作拠点・ピリカ遺跡	豊かな鉱物資源により特徴付けられる鉱山文化	キリスト教団体が入植した地
方 針	▸効果的な情報発信 ▸見学しやすい環境整備	▸旧石器文化の発信拠点へ ▸「縄文以前」の世界への誘導	▸子どもたちが学ぶしくみづくり ▸岩石・鉱物を活用した魅力の発信	▸専門的調査と保存措置 ▸ボランティアガイドの養成

*関連文化財群は、指定・未指定を問わず、地域にある多種多様な文化財を歴史文化に基づく関連性、テーマ、ストーリーによって一定のまとまりとしてとらえたものです。グループとして扱うことで、未指定文化財についても構成要素として価値付けができ、相互に結びついた文化財の多面的な価値や魅力をわかりやすく伝えることができる効果があります。

文化財の保存・活用に関する取組

守る

文化財の指定・登録の推進

•把握調査や専門家によって価値付けされた文化財は順次新規指定・登録を推進し、保存と活用を図ります。


マンガン鉱山関連資料

美利河砂金採掘跡の保存整備

•安全に見学できるような環境整備、解説案内板を設置し、学校教育・社会教育両面での活用や観光活用を図ります。


美利河砂金採掘跡

調べる

重要遺跡所在確認調査

•把握調査で確認された重要遺跡の所在確認・試掘調査を実施し、今後の保存整備に向けた基礎資料とします。


重要遺跡所在確認調査

カニカン岳金山跡の把握調査

•採掘坑や露頭掘り跡、鉱山臼の散布域等、現地の所在確認調査や文献調査を実施して鉱山の全容を把握し、教育普及・教育利用の基礎資料とします。


カニカン岳金山跡

方針		取組	計画期間*		
守る	▸指定文化財の保存管理の推進 ▸文化財保護意識の啓発	文化財の指定・登録の推進	前	中	後
		美利河砂金採掘跡の保存整備	前	中	後
		「いまかね遺産」選定会議の開催	前	中	後
		文化財の防災・防犯事業	前	中	後
調べる	▸文化財の掘り起こしと価値付けの推進 ▸人員体制の強化	重要遺跡所在確認調査	前	中	後
		ピリカ遺跡の専門的調査と報告書刊行	前	中	後
		マンガン鉱山の把握調査	前	中	後
		カニカン岳金山跡の把握調査	前	中	後
		ピリカカイギュウ化石の専門的調査	前	中	後
		歴史的建造物・民俗芸能の把握調査	前	中	後

*前：令和 4～6 年度　中：令和 7～9 年度　後：令和 10～12 年度　着色部で実施

分野ごとに定めた方針に沿い、合計 18 の取組を進めることで、文化財の保存・活用を図ります。本概要版では分野ごとに 2 つずつ取組内容を紹介しています。

磨き上げる

フットパスコースの整備・周遊アプリの開発

•多様な文化財を周遊できるコースを整備し、教育利用と観光活用を図ります。大学等の研究機関や専門家と連携し、内容を洗練化します。


ピリカカイギュウ発掘地点

歴史文化を活かした観光活用

•金山関連遺産を北海道遺産に申請し、選定を目指します。関係機関と連携して、町外の関連遺産等とつながる周遊ルートを設定し、観光活用を図ります。


砂金掘り体験

育てる

「ふるさと学習プログラム」の導入

•学校教育に体験プログラムを組み込み、町の歴史文化を体系的に学べるしくみを導入します。関係機関と連携をとり、受入態勢を整備します。


貝化石発掘体験

定期的な講習会を通じたボランティア養成

•講習会を通じてガイドを要請し、歴史文化の保存と継承を図ります。行政が活動支援を行い、運営の円滑化を図ります。

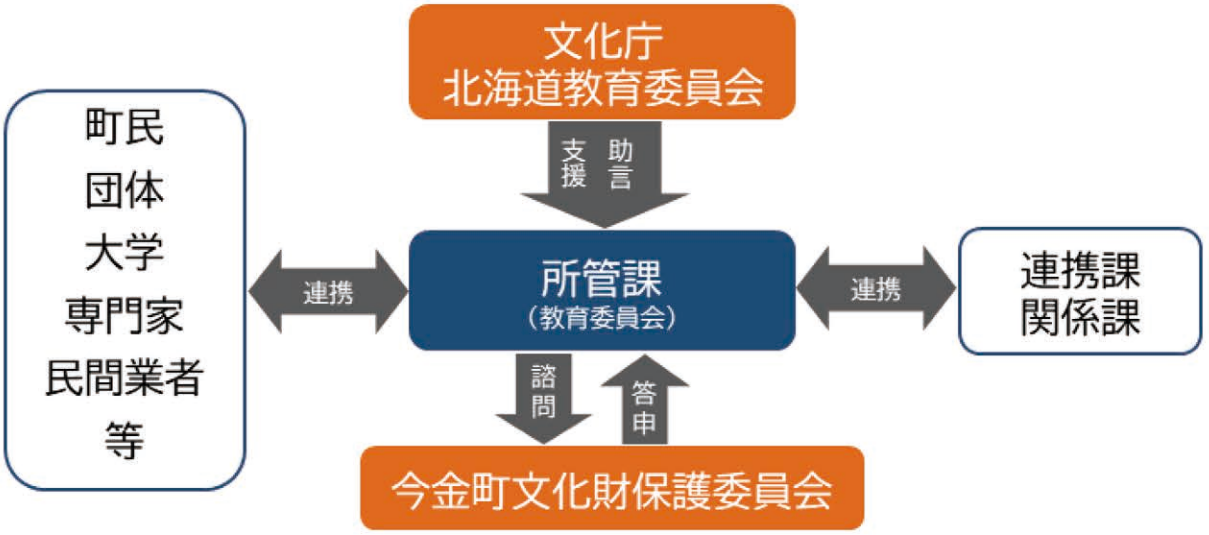

ボランティア講習会

方針		取組	計画期間*		
磨き上げる	▸ハード・ソフト両面での整備 ▸わかりやすい形での洗練化	ピリカカイギュウ化石の特設展示場整備	前	中	後
		ピリカ遺跡に関する調査研究成果の活用	前	中	後
		フットパスコースの整備・周遊アプリの開発	前	中	後
		マンガン鉱山・国鉄瀬棚線の再現展示	前	中	後
		歴史文化を活かした観光活用	前	中	後
育てる	▸学校教育との連携 ▸実施できる体制整備	「ふるさと学習プログラム」の導入	前	中	後
		定期的な講習会を通じたボランティア養成	前	中	後
		子どもたちの参加機会の提供	前	中	後

*前：令和 4～6 年度　中：令和 7～9 年度　後：令和 10～12 年度　着色部で実施

文化財の保存・活用に関する推進体制

本地域計画を円滑に推進するためには専門職員を安定的に配置し、人員体制を強化することが必要です。また、所管課全体で共通認識を図るとともに、連携課・関係課との情報共有と連携の円滑化が欠かせません。民間団体や専門家、大学等の研究機関、地域住民の理解と協力を得るなど、これまでに以上に横の連携を深め、幅広く効果的に事業を実施することが求められます。



本地域計画の実現のためには、町内で現在活動する団体との連携が必要不可欠です。それぞれが個別に事業を行うだけでなく、連携することによって、より大きな力になることが期待されます。

今後、団体間の横断的な連携体制「いまかね遺産選定会議」を設置し、情報の共有化を図りながら、幅広い町民等の参加を求め、地域ぐるみで地域計画の目標の達成を目指します。

町民の皆様のご理解とご協力をどうぞ宜しくお願いします。

今金町文化財保存活用地域計画概要版

（文化庁長官認定：令和4年7月22日）

○発　行　日：令和４年９月３０日

○発　　行：今金町教育委員会

○編　　集：今金町教育委員会 社会教育グループ
〒049−4308 北海道瀬棚郡今金町字今金48番地１
ＴＥＬ　０１３７−８２−３４８８

○印刷・製本：今金はやし印刷社
〒049−4308 北海道瀬棚郡今金町字今金160番地７
ＴＥＬ　０１３７−８２−０８８４

令和３年度 文化庁地域文化財総合活用推進事業補助金
（文化財保存活用地域計画等作成事業）